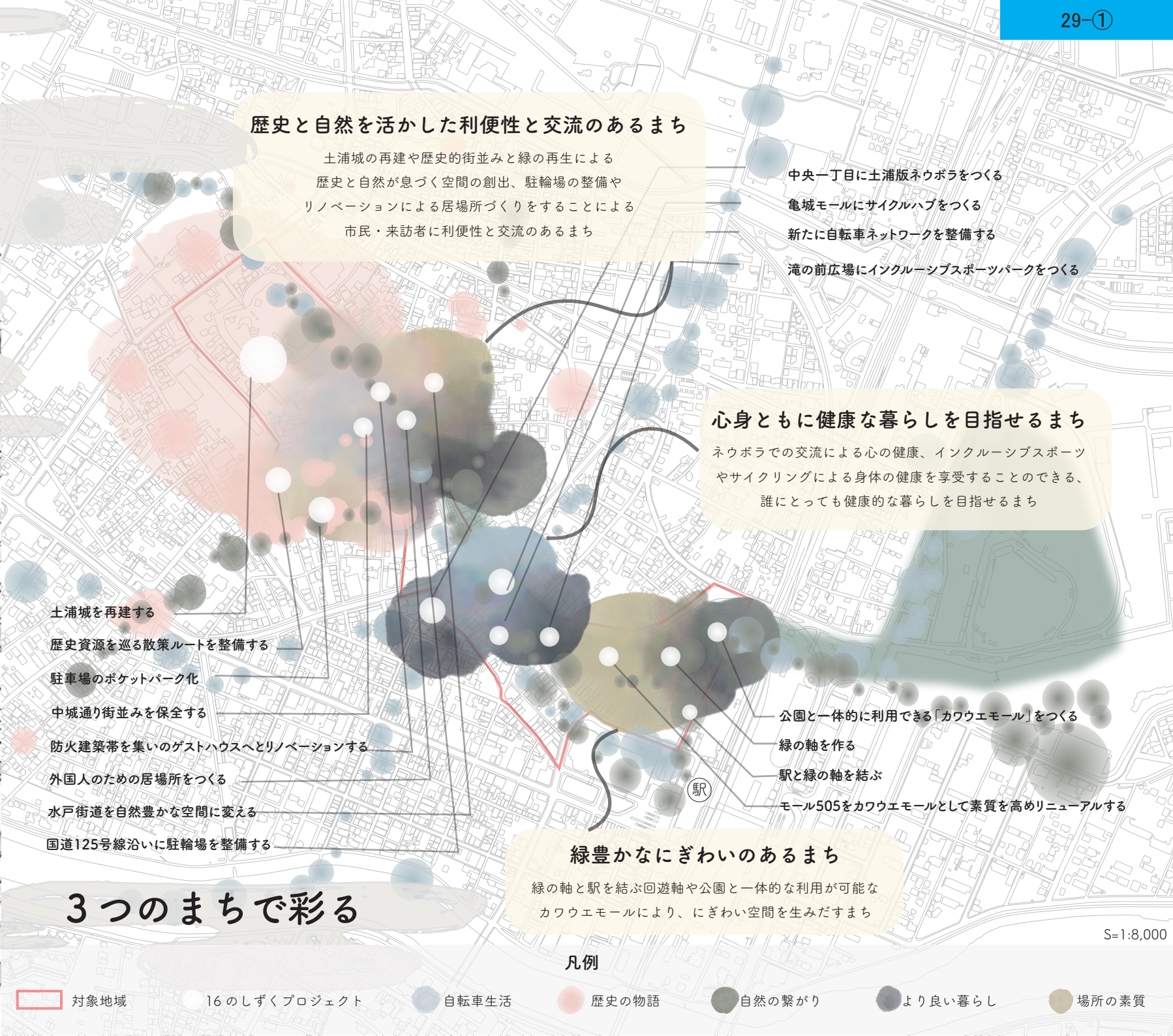
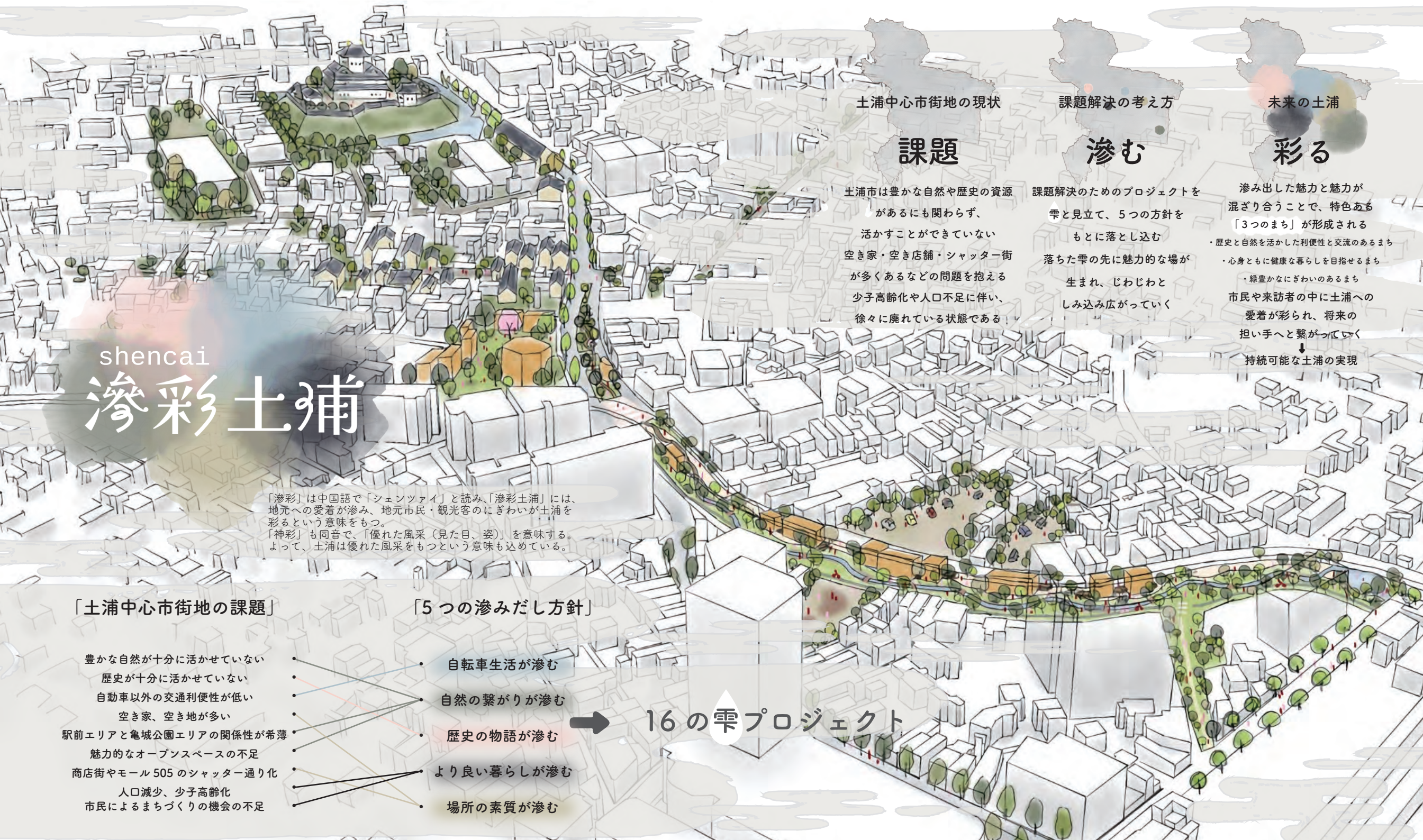




- 自転車生活が滲む -

県や市を挙げて自転車利用を推進しているが、市民の生活に根付いていない現状がある。自転車は単なる移動手段の一つに過ぎず、健康促進・環境への配慮という一面もあり、今後の土浦のまちづくりにおいて必要不可欠なものであると考える。将来的には市内の移動手段として最も選ばれる選択肢になることを目標とする。

① 新たに自転車ネットワークを整備する

新たな自転車ネットワークとして、安全な自転車走行空間のネットワークを整備する。

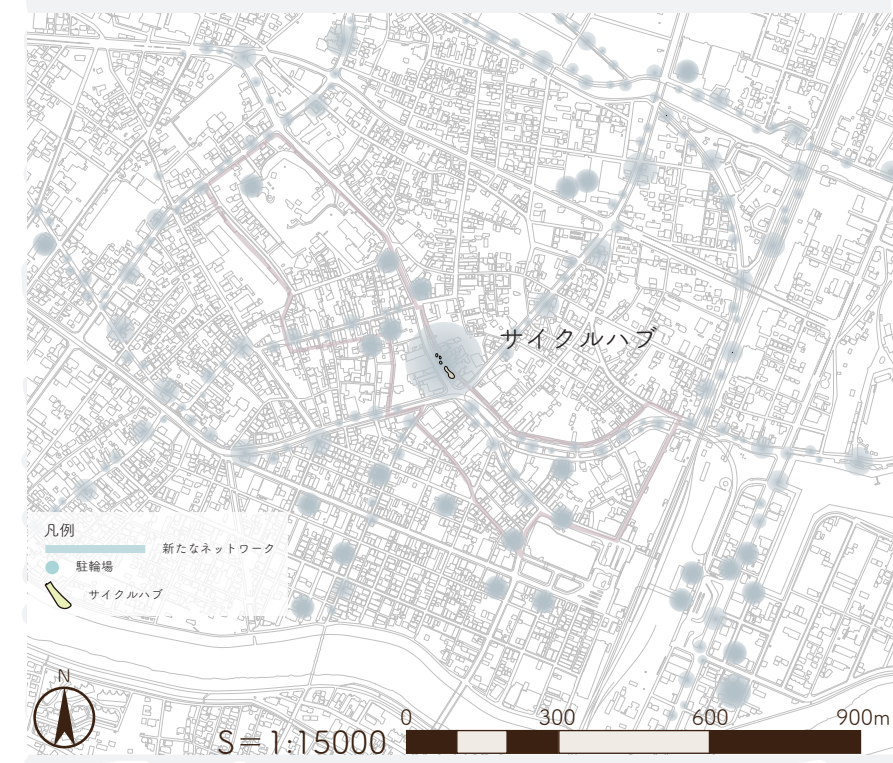
- a・e … 亀城公園、霞ヶ浦などの市内観光施設を結ぶ
- a・d … 土浦駅、市役所、亀城プラザ、土浦第二高校などの都市機能を結ぶ
- b・f … 現時点で整備されたりんりんロードと観光系ネットワークを結ぶ
- c … サイクリングに最適な桜川河川敷と自転車ネットワークの結節点を結ぶ

② 国道125号線沿いに駐輪場を整備する

上記の提案による土浦市内での自転車利用の増加に伴い、移動利便性の向上、違法駐輪を抑制し歩きやすい街路空間にするための駐輪場を市街地にも整備する。

③ 亀城モールにサイクルハブをつくる

新たに整備するネットワークと現状のネットワークの結節点となっている亀城モールにサイクリストの拠点となる施設＝サイクルハブをつくる。駅前エリアではなくあえて街中につくることでサイクリストを市内観光施設へと誘導できるため、土浦中心部がさらに賑わうことに貢献する。



- 自然の繋がりが滲む -

そのため、現緑の亀城公園と霞ヶ浦を軸に災害の防止を図るため旧川口川の土地を緑主体のオープンスペースに戻しネットワーク化を図る。これを緑の軸として2つの河川まで旧水戸街道に沿って市民と協働で緑を増やし整備を進めていくことで将来的に土浦全体が緑豊かな街になることを期待する。

① 緑の軸をつくる

現緑であるスタジアムと亀城公園に快適な歩行者空間を整備し、「緑の軸」として繋ぐことで、自然を通して様々な賑わい空間に人々を導く。旧川口川を川や道で復活させ、観光資源の霞ヶ浦との繋がりを作るとともに、人々の生活で身近に感じてもらい、駅前の現駐車場に霞ヶ浦の玄関口となる拠点をつくり、多様な人々が集まることができる「交流広場」を生み出す。

② 駅と緑の軸を結ぶ

土浦駅から「緑の軸」を繋ぐことで、新たな拠点へと導く回遊性を生み出す。「駅前広場」や元パチンコ店をオープンスペースとした「賑わい通り」を魅力的なものにし、街路樹で繋がりをすることで人々を誘致する。

③ 旧水戸街道「緑のまちづくり」

街路樹などを用いて自然的な空間へと整備し、新川と桜川を結び人々の導線を作る。地域の人々が協力して歴史的町並みの保全を行う。歩行者専用空間にし、植栽の作成・管理・整備を行うことで、地域に根差し、観光地としても魅力ある空間づくりを行う。



- 歴史の物語が滲む -

歴史的建造物や町割りを保全することで快適な歩行空間を創出するとともにまちの回遊性を高める。さらに、土浦城と周辺の水や緑、旧水戸街道沿いの街並み、緑地、旧川口川の跡地など土浦の歴史と歳月が物語として市民生活に根付き、後世に文化として滲んでいくことを期待する。

① 歴史資源を巡る散策ルートを整備する

土浦市に点在している多様な歴史資源は、土浦の文化の基盤になっている。そしてこれらの歴史資源を積極的な活用し歴史をテーマとした散策ルートを設定することにより、資源と資源、資源と地域のつながりをつくる。

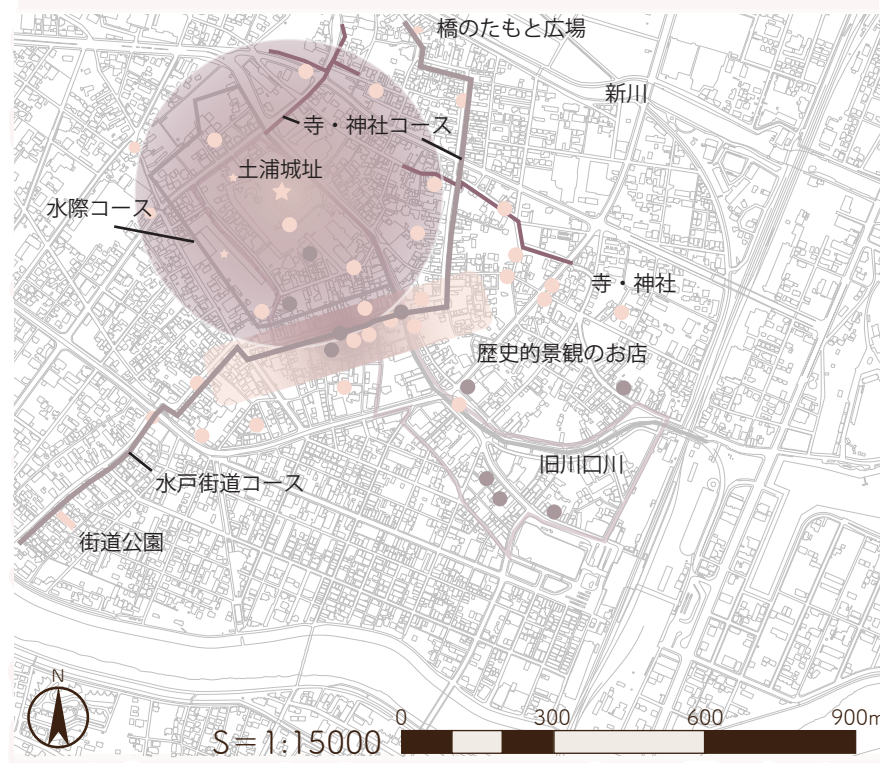
- 水際コース — かつて堀であったところや暗渠を辿る
- 水戸街道コース — 旧水戸街道を通してかつての城下町を辿る
- 寺・神社界隈コース — 歴史ある寺社を巡る

② 中城通り街並みを保全する

歴史的建造物や町割りを保全し、建築物などの調和の取れた街並みを形成することで快適な歩行空間を創出するとともにまちの回遊性を高める。そのために蔵や路地の保全や街並みガイドラインの作成を行う。

③ 土浦城を再建する

現在は廃城となった土浦城を復元することで、これからのまちのシンボルとなる。また、「土浦城復元プロジェクト」と称しワークショップの開催や近隣学校との連携を通じて市民参画を図る。これにより市民の土着愛の形成や関係人口の増加に繋げたい。さらにまちづくり政策の財源のうち1%は復元費用に充てることで財源の確保を目指す。



- よりよい暮らしが滲む -

近年、市では高齢者人口の増加とともに障害者人口も増加していくことが見通される。さらに外国人市民が著しく増加し、定住化傾向が進んでいる。今後地域で豊かな生活をするためのニーズが多様化していくことが予測されるため、年齢や国籍を問わずすべての市民が安心して社会参加することのできる環境を物心両面にわたってつくりだすこととともに支え合う地域社会を築く。

① 公園と一体的に利用できる「カウエモール」をつくる

モール505があった場所を商業だけでなく、福祉・医療機能もある「カウエモール」として変化させ、土浦市民によりよい暮らしにする。

② 滝の前広場にインクルーシブスポーツパークをつくる

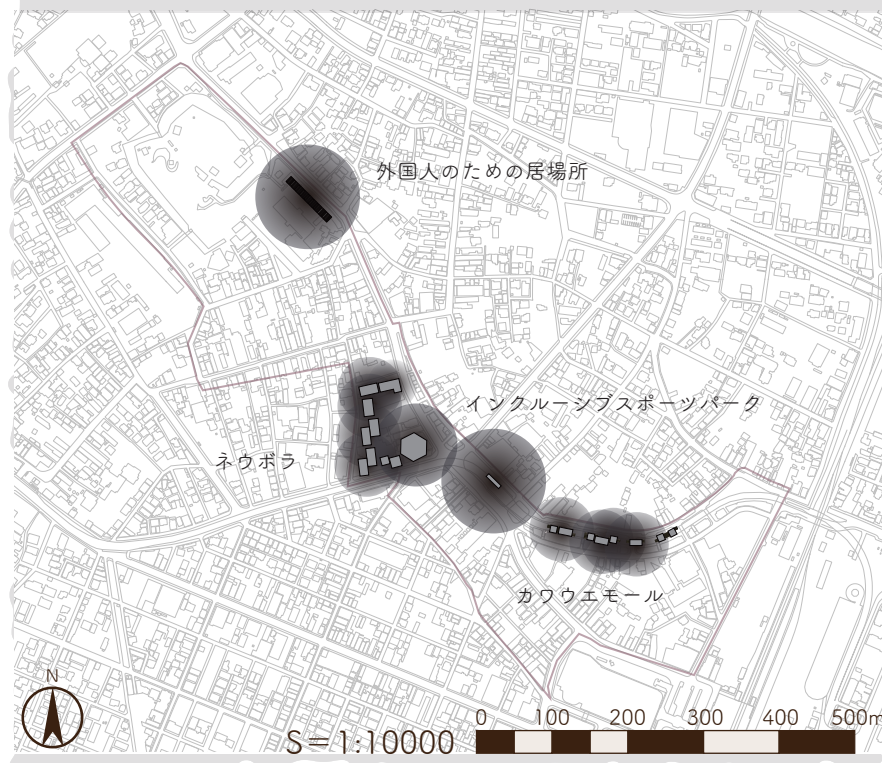
インクルーシブ (inclusive) とは、「包括的」や「すべてを含む」といった意味をあらわす言葉である。スポーツを通して、障がいのある有無や国籍、肌の色、年齢、性別などに関係なく、一緒に楽しめるような公園にすることでよりよい暮らしにする。

③ 中央一丁目に土浦版ネウボラをつくる

「ネウボラ」とはフィンランド語で「助言の場所」を指す言葉で、子育て支援の取り組みを意味する。この言葉のように、子育て支援をはじめ、親同士、子育て同士の交流や地域の人との交流をうながし、子育てがしやすく、よりよい暮らしにする。

④ 外国人のための居場所をつくる

土浦市の人口の2%ほどを占める外国人居住者に対して、城下町の歴史的雰囲気を感じられる場所で日本での暮らしをより良くするための施設にする。また、外国人観光客にとって安心して楽しく観光ができる環境を整える。



- 場所の素質が滲む -

モール505やまちかど蔵などの商業機能を持った場所があるのに対し、空き家や空き店舗が多くあり、活気が感じられない現状がある。さらに、公共空間が少ない一方で、駐車場が多く点在しており、場所の有効活用ができていない現状がある。住民が日々利用する場所としてだけでなく、観光客に向けた利用を促し場所の素質を活かしたにぎわいの創出を図る。

① モール505をカウエモールとして素質を高めリニューアルする

既存の店舗を残しつつ、小売業など新たな店舗の誘致も行いながらモール505のリニューアルを行う。駅近という立地の素質を活かし、現在のニーズに応えながら新たな集客を得ることでにぎわいを復活させる。

② 防火建築帯を集いのゲストハウスへとリノベーションする

国道125号線沿いにある空き家や空き店舗を利用し、1階を店舗、2階をゲストハウスへとリノベーションする。1階には飲食店や直売所、交流センターを設置し、ゲストハウスや近隣の飲食店と協力しながら事業を行う仕組みをつくる。宿泊施設と店舗が連携することで地元住民と共に観光客に向けたサービスを通して地元活性化に寄与する。

③ 駐車場のポケットパーク化

屋外駐車場の敷地の一部に緑や休憩空間を設けて、一部をポケットパークにつくり変えることで、場所の価値を見出し有効活用につなげる。ポケットパークとして人々に利用してもらい場所の価値を創出する。

